

二〇一四年五月二日

霾や窓の曇りのただならず
主婦楽しただけのこ茹でて豆剥いて
山笑ふ通行止めの解けし路
五色幕風にはためく牡丹寺
庭畑に八十八夜の畝立つる

二〇一四年五月一日

花菜畑遍路の傘の見え隠れ
春水を掛けても笑まぬ不動尊
薫風やオープンカフェーは宮の杜
満々と岸寄す波や雪解川

二〇一四年四月三〇日

口ずさみはりまや橋に春惜しむ
襦袢干す竿に小さな鯉のぼり
越境の竹の子境内憚らず
撫で牛に人の絶えなき春の宮

二〇一四年四月二九日

先客の猫が媚び寄る藤の棚
うららかな日を背なに負ひ畑仕事
太陽の塔に春雨や昭和の日

みちほ
菜々

こすもす
つくし
きづな

ともえ
よし女
つくし

みちほ

治男

うつぎ

きづな

満天

ひかり

ひさ野

菜々

国道を横切る毛虫見てをれず

藤房に遊ぶ風あり峽夕べ

二〇一四年四月二八日

春光を撒き散らしゐる洗ひ堰
ふるさとへ谷よ峠よ余花の道
花菜畑過ぎりジェット機着陸す
悠然と向き変ふる鯉水温む
バスの旅どの道ゆきも麦の秋

二〇一四年四月二七日

里山の空を低しと鯉幟
延命の水に浮きたる落椿
花の門一年生はスキップで
ドライブの車窓に野路の春惜しむ
躑躅映ゆ水面犇めく鯉の口

二〇一四年四月二六日

春耕といふも猫額庭畑
春落葉否梢洩る雀どち
青空へこぞりて芽吹く山路かな

こすもす

有香

みちほ

菜々

ひかり

ひさ野

宏虎

三刀

ぼんこ

満天

さつき

三刀

菜々

さつき

ひさ野

毎日句会みのる選・二〇一四年五月四日